

「日経SDGs経営」 総合レポート プレミアム編

NIKKEI
SDGs

I. サステナビリティに関する情報開示

II. GX

III. 自然資本

IV. 人権

にフォーカスした分析を、貴社のSDGs戦略の立案・見直しにご利用ください。
※総合レポートには、評価レポートが含まれます。

I. サステナビリティに関する情報開示

I-1. 取組と開示のギャップ

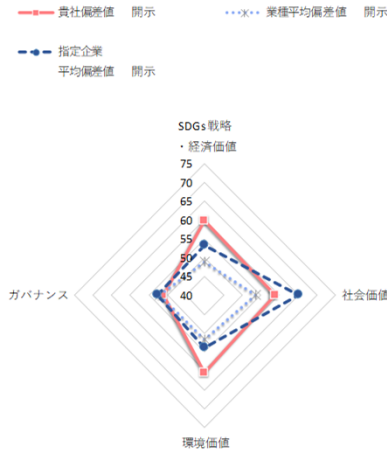
I. サステナビリティに関する情報開示診断

1. 情報開示の偏差値

SDGs経営調査の設問のうち、情報開示に関する設問のみの得点を合算し、情報開示の評価を算出しました。
また、総合、SDGs戦略・経済価値、社会価値、環境価値、ガバナンスの各分野の偏差値を掲載しております。

	総合	SDGs戦略・ 経済価値	社会価値	環境価値	ガバナンス
貴社偏差値 開示	60.1	59.9	58.8	60.5	51.0
業種平均偏差値 開示	51.6	48.8	53.5	51.7	52.2
指定企業 平均偏差値 開示	53.9	53.3	65.0	53.8	52.6

貴社業種 (AQ1回答)	〇〇業
貴社指定企業 (計10社)	A社、B社、C社、D社、E社、F社



SDGs戦略・経済価値	貴社偏差値 偏差値 差
事業との関連 (事業が与えるインパクトの開示)	68.8 4.5
経営トップによる発信 (トップメッセージの公開、内容の充実)	57.7 0.4
社会価値	貴社偏差値 偏差値 差
人権方針 (人権方針の開示)	62.2 4.0
人権デュー・デリジェンスの実施 (人権リスク、人権デュー・デリジェンス実施状況の開示)	61.2 0.1
環境価値	貴社偏差値 偏差値 差
水資源の活用 (水資源に関するリスク・機会の分析結果の開示)	62.0 1.2
リスク・機会の分析 (気候変動に関するリスク分析結果の開示内容の充実)	57.1 0.8
ガバナンス	貴社偏差値 偏差値 差
役員報酬 (役員報酬の算出方法の開示)	66.6 12.6
ホードダイバーシティ (取締役のスキルマトリックスの開示)	58.0 2.2

	貴社偏差値	
	偏差値	差
社外開示 (推進体制の開示, サステナビリティの開示媒体の拡大)	52.2	-9.8
投資家との対話 (株主総会や決算説明会, 投資家向けの説明会の実施)	55.4	-3.2
	貴社偏差値	
	偏差値	差
苦情・救済窓口 (苦情窓口を設置していることの開示)	52.2	-10.2
人的資本開示 (人的資本に関する方針および指標・実績の開示)	49.4	-8.5
	貴社偏差値	
	偏差値	差
水以外の資源の活用 (水以外の資源に関するリスク・機会の分析結果の開示)	2.0	-57.2
再生可能エネルギーの把握 (電力量のうち再生可能エネルギー使用量の開示)	45.5	-10.3
	貴社偏差値	
	偏差値	差
社外取締役と投資家との対話 (社外取締役と機関投資家との面談内容を開示)	43.6	-21.7
ガバナンス方針 (ガバナンス, 汚職防止・企業倫理方針の公表)	52.4	-4.7

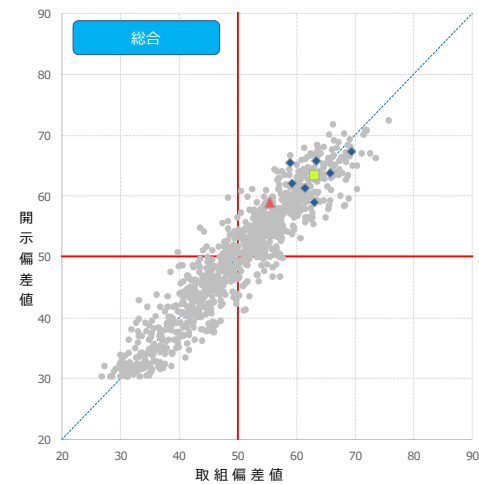
SDGs経営調査の評価項目から、取組が進んでおり情報開示の余地がある分野を算出。今後開示すべき分野を定量的に把握できます。

I-1. 取組と開示のギャップ

I. サステナビリティに関する情報開示診断

3. 貴社の取組と開示状況のポジショニング

取組偏差値と開示偏差値で散布図を作成いたしました。
貴社のポジショニングがより明確に把握いただけます。



【散布図の見方】
横軸：取組偏差値
縦軸：開示偏差値

赤▲→貴社の評価
青◆→指定企業各社の評価
緑■→指定企業の平均の評価

貴社のプロットと指定企業のプロット、またそれぞれのプロットの位置を比較していただくことで、
貴社の取組と開示のポジショニングをご確認いただけます。

定量的な分析の結果、貴社で開示を進めることができる分野をご提案します。

Ⅱ－1. 総評

各テーマごとに、今回の刷新ポイントと結果と今後の展望をまとめた総評ページが収録されています。
自然資本と人権の章でも同様の形で総評がまとめられています。

今回の刷新ポイントと結果

総評では、今回の刷新ポイントとその結果を通して傾向と課題をお示しするとともに、今後の展望をまとめています。

刷新ポイント

開示の質向上に対する要請

機会を把握することは経営を考えるうえで重要であるという認識が広がり、ESGで取り組む企業は増加しました。

シナリオ分析などを用いながら、データを収集し、投資家をはじめと

○該当設問

・EQ23：気候変動に関する開示

リスクと機会の項目を財務的な観点から細分化した。

・EQ23SQ1：連結売上のうちシナリオ分析をした事業の割合 **新設問**

シナリオ分析の有無および財務的な影響を把握するのにどの程度活用されているのかを追加。

・EQ23SQ2：シナリオ分析の方法 **新設問**

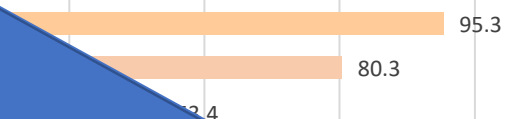
シナリオ分析の方法の中でも重要だと考えられる方法を追加。

サンプル

戦略や移行計画といった長期的視座が必要な項目の分析が課題。
シナリオ分析の活用が低いこととも相関が見られる。

EQ23SQ2：シナリオ分析の方法

調査対象と回答した283社内訳を集計、一部抜粋



単位：%

4. GX500の結果概要

脱炭素経営ランキングGX500の評価結果について、貴社の偏差値と貴社業種および指定企業の平均を表示しています。

	GX総合偏差値	a.情報開示	b.排出量の管理や削減実績	c.省エネや再エネ活用	d.温暖化ガス削減の具体策	e.削減の目標設定
貴社偏差値	58.8	61.0	59.2	46.6	61.5	51.8
貴社ランク	B	BB	B	DDD	BB	C
業種平均偏差値	53.3	52.7	53.1	52.7	53.6	51.2
指定企業平均偏差値	57.6	50.1	44.5	46.0	58.9	44.2
貴社業種 (AQ1回答)	通信・サービス					
貴社指定企業 (計0社)	A社、B社、C社、D社					



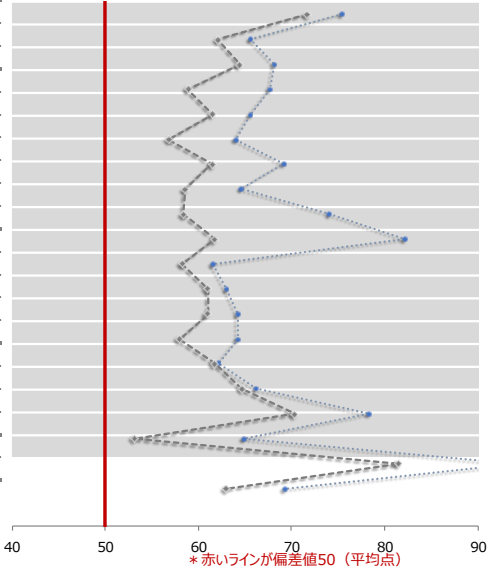
NIKKEI Prime(日経プライム)でも公開したGX500について、紙面上では掲載できなかった範囲も含めて公開する予定です。また、貴社の偏差値と貴社の業種および指定企業の平均との比較が可能です。貴社のGXの達成度を、競合企業と比較して確認いただくためにご活用いただけます。

8. GX500 小分類偏差値

指定企業平均と比較することで、自社が遅れているか・進んでいるかが分かります。さらに指定企業トップと比較することで、進んでいる分野においても、更なる改善の伸びしろが分かります。 ※指定企業トップは、項目ごとに最も高い評価を表しています。総合評価が最も高い企業とは限りません。

		貴社	指定企業平均		指定企業トップ	
			偏差値	ギャップ	偏差値	ギャップ
情報開示	イニシアチブへの参加	45.3	55.5	-10.2	75.4	-30.1
	リスク・機会の開示内容	46.3	56.5	-10.2	65.6	-19.3
	シナリオ分析	47.3	57.5	-10.2	68.2	-20.9
排出量の 管理や 削減実績	温暖化ガス排出[Scope1,2]の把握	48.3	58.5	-10.2	67.7	-19.4
	温暖化ガス排出[Scope3]の把握	49.3	59.5	-10.2	65.6	-16.3
	温暖化ガス排出[Scope1,2]の実績・見込	50.3	60.5	-10.2	64.0	-13.7
	温暖化ガス排出[Scope3]の実績・見込	51.3	61.5	-10.2	69.2	-17.9
	温暖化ガス排出[原単位]の実績・見込	52.3	62.5	-10.2	64.6	-12.3
	温暖化ガス排出[Scope1,2]のネット後実績・見込	53.3	63.5	-10.2	74.1	-20.8
	温暖化ガス排出[Scope3]のネット後実績・見込	54.3	64.5	-10.2	82.1	-27.8
省エネ や 再エネ 活用	消費電力量の把握	55.3	65.5	-10.2	61.5	-6.2
	再生可能エネルギーの把握	56.3	66.5	-10.2	63.0	-6.7
	電力量の実績・見込	57.3	67.5	-10.2	64.3	-7.0
	再生可能エネルギーの実績・見込	58.3	68.5	-10.2	64.2	-5.9
	再生可能エネルギーのうち証書購入量実績	59.3	69.5	-10.2	62.2	-2.9
温暖化 ガス削減 の具体策	環境経営の方針	60.3	70.5	-10.2	66.2	-5.9
	気候変動への取り組み	61.3	71.5	-10.2	78.3	-17.0
	ESG債の発行	62.3	72.5	-10.2	64.8	-2.5
	脱炭素の自社外での貢献	63.3	73.5	-10.2	94.0	-30.7
削減の 目標設定	カーボンニュートラル宣言・中長期目標	64.3	74.5	-10.2	69.3	-5.0

貴社 指定企業トップ 指定企業平均



小分類ごとに貴社の偏差値と指定企業の偏差値、また指定企業トップの偏差値との比較が可能です。指定企業と指定企業トップとの差も確認いただけます。

* 赤いラインが偏差値50 (平均点)